

# 7時間連続の試合に挑む

初の「オール京都ノンストップゲートボール大会」

## 対抗戦 残り5分、女性チーム逆転

京都府ゲートボール連合は6日、京都市伏見区のフットサルスクエア京都南で、「ギネスに挑戦!! 第1回オール京都ノンストップゲートボール大会」を実施し、40人の愛好

家が男女対抗で7時間連続の試合を行いました。

ゲートボールは高度経済成長期に高齢者向けのスポーツとして大流行しましたが近年では、グラウンドゴルフなど

高齢者のスポーツ志向が多様化。プレーヤーの高齢化ともあいまってゲートボールの競技人口は減少傾向にありま

す。京都も例外ではなく、京都連合の鈴木信久会長(80)は「最盛期より愛好者は半減しています」と言い、「何とか人気を復活させたい」とノンストップ大会を企画しました。

通常、1チーム5人で、試合時間は30分間。5人全員が「あがる」と25点満点で試合終了です。今回は、あがっても再スタートし、得点も累計するという特別ルールで行いました。男女各20人が参加し、おおむね30分ごとに選手交代しました。ベテラン選手がそろっただけにスコアが伯仲す

### 「交流楽しかった」

○…今回は京都市中京区、城陽市、長岡京市、大山崎町から60〜80代のベテラン選手が参加しました。

女性チームの南村よし子さん(65)は「途中でプレーをバトンタッチするのはプレッシャーになるとの声もありましたが、それが真

るゲームとなりました。試合終了間際までどちらが勝つか分からず、残り5分ほどで女性チームが22対21で逆転勝利しました。今回は「試み」として行われ、鈴木会長は「ゲートボールのギネス長時間記録はなく、近いうちにギネス社に申請できる大会にした」と話しました。(坂本真一)



▲ 試合時間の終了が近づくにつれ、1打1打のプレーに注目が集まりました

剣な勝負につながった。顔見知りの人には「お願いします」と託し、懸命に応援しました」と疲れも見せずに話しました。

男性陣の平岡利三さん(74)は「ベテラン選手が集まってレベルの高い試合になりました。あがって終わりではないのでゲートボールの面白さが際立ちました。他地域の人も交流できて楽しかった。またやりたい」と語りました。